

リンドウ栽培への取り組み 高く評価される



田村市長(手前)に農林水産大臣賞受賞を報告する(左から)高村敏彦部会長、高橋正 J A 新いわて八幡平宮農経済センター長と同センター職員

第24回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール
農林水産大臣賞受賞
新岩手農業協同組合八幡平花卉生産部会

プロフィール 昭和47年、安代町で水田転換品目としてリンドウの栽培を始めた若手生産者【4 Hクラブ(農業青年クラブ)員】が、栽培方法の確立、販売対策のために「安代町農協花き園芸生産部会」を組織したのが始まり。以後、農協合併などによる再編を経て、平成24年2月に「新岩手農業協同組合八幡平花卉生産部会」に改称。同部会の会員数(3月12日現在)は170戸で、高村敏彦氏(55)＝高畑＝が部会長を務める。

市の特産品であるリンドウ栽培に取り組む「新岩手農業協同組合八幡平花卉生産部会」(以下、花卉生産部会)が「第24回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール」(一般財団法人日本花普及センター主催)で最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました(本県からの同賞受賞は23年ぶり2回目)。

に、売り上げの一部を研究協力費として拠出。品種の選定や栽培者へのきめ細やかな指導、海外輸出への取り組みなど、リンドウの産地づくりに大きな貢献を果たしていることが高く評価されました。

表彰式は3月9日に東京都内で開催。12日には、高村敏彦部会長と関係者らが市役所を訪れ、田村正彦市長らに受賞を報告しました。

高村部会長は「先輩たちから引き継いできたリンドウ栽培などへの取り組みが認められたのは、非常に喜ばしい。これまでの試みの方向性が正しかったことが証明された」と語り、今後について「受賞をひとつのステップとして、部会の目標である年間売り上げ15億円を達成したい」と、意欲を高めました。



放水体験会も実施

今月の表紙 将来の夢は消防士かな?

八幡平消防署防災フェスタが3月8日、同署敷地内で開催され、家族連れなどにぎわいました。防災フェスタでは、防災用品や東日本大震災の写真などを展示。体験コーナーでは、地震・煙体験や防火衣の試着、初期消火・放水体験会などが行われ、訪れた子どもたちは、各展示などを見学し、防災への関心を高めました。

■編集後記
▽26年5月以来の編集後記です。取材先で「眼鏡のお兄さんじゃない」と言われなくなり、徐々に広報担当として覚えられてきたところでしたが、なんと異動に！ たくさんのイベントに参加し、皆さんにも声を掛けていただき、本当に楽しい1年間でした。ありがとうございました。(恩賞) 行政広報通算8年生で2回目の卒業...もう再入学はないでしょう。皆さんに感謝・感謝です。(信) 4月からも引き続き担当します。今後ともよろしく！ (佐々木)

